施策評価シート　　施策421

1. 基本情報

評価対象年度　（　30　年度）

施策コード	421		施策名	自然環境の保全			
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち（「基盤づくり」の分野）					
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち					
主担当部	都市整備部		主担当課	水と緑の環境課	主担当係	緑と公園係	
担当者	佐々木　秀貴		役職	都市整備部長	内線	360	
関係課	生涯学習スポーツ課						

2. 施策の方向

10年後の姿	雑木林、崖線、屋敷林などの緑地や河川など、豊かな自然環境が適切に保全されています。	
施策の方向性	1	自然の大切さを広め、緑地や水辺など自然環境の保全に努めます
	2	雑木林の再生と水辺と親しめる環境を整備し、うるおいを感じるまちづくりを進めます

3. 構成事業の状況

（単位：千円）

No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成29年度決算	平成30年度決算	平成31年度予算	
0104010401	環境衛生事務事業		1	水と緑の環境課	1,951	1,983	1,930	1
0104010505	環境保全啓発事業	対象	すべて	水と緑の環境課	5,752	6,834	6,000	2
0108030504	緑地保全事業	対象	すべて	水と緑の環境課	42,024	32,643	83,898	3
0108030508	カタクリまつり事業		すべて	水と緑の環境課	548	548	555	4
0108030510	柳瀬川回廊事業	対象	すべて	水と緑の環境課	6,000	7,619	7,775	5
0110050113	清瀬下宿ビオトープ公園管理事業		2	生涯学習スポーツ課	2,460	2,452	2,648	6
総事業費（施策の合計）					58,735	52,079	102,806	

4. まちづくり指標

指標情報						平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和3年度	令和7年度
①	名称	市が保全する緑の面積			目標値	5.2	5.2	5.2ha以上	5.2ha以上	5.2ha以上
	説明		単位	ha	実績値	5.2	5.2			
	抽出方法	公有財産台帳など			達成率	100.0%	100.0%			
②	名称	身近な水辺や緑に親しみを感じると思う人の割合			目標値	—	—	—	75.0	80.0
	説明		単位	%	実績値	72.2	—			
	抽出方法	市政世論調査（平成29、令和2、5、8年度実施）			達成率	—	—			

5. 評価（平成30年度実績に対する）

評価基準		評価※	評価理由
投入財源・成果（「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」）に対する評価	総合評価（成果、投入財源等を総合的に評価）	維持	自然環境団体と市の協働による雑木林の再生などにより、緑比率の維持に努めている。しかしながら、相続による生産緑地（畑）の減少により、緑被率の維持は年々難しくなっているのが現状である。このような中、緑地の減少を防ぐため、公有地化を進めている。今後も土地所有者などから情報収集を行い、市の財政状況を考慮しながら、将来を見据えた上で、必要最小限のまとまりのある緑地の公有地化が必要となる。 公共施設のみどりを適正に管理するための「公共施設のみどりの管理方針」を策定した。今後は方針を進めながらみどりの保全に努める。 柳瀬川回廊事業推進検討委員会の答申されたため、ワークショップを開催し、維持管理を含めどのような公園整備をするか引続き検討する。 ビオトープ公園は清瀬市よりシルバー人材センターへ管理の業務委託をしており、財源に関しては、10/10を都が委託金で負担している。毎年会議を三者（東京都下水道局、清瀬市(生涯学習スポーツ課)、シルバー人材センター）そして自然を育む会で行っており、清掃（年3回）や運営管理の状況について話し合っている。また清明小学校の自然観察会を年4回ほど実施し、子供達に自然についての勉強会を「自然を育む会」の協力を頂き実施している。また入場者数は毎年3,000人前後で推移しており、大きな変動はない。そのため評価としては維持とした。

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズの状況	清瀬市のみどり豊かな自然環境がよいから住み続けたいと思っている方が平成29年度市政世論調査では約60%いる。 ビオトープ公園の入場者数は毎年3,000人を維持している。	3.施策の必要性を高める	清瀬市のみどりの保全は多くの方から評価されているため、この施策を高め魅力的なものにすることで清瀬市の財産価値を高める。 清明小の自然観察会などで利用されており、子供の教育に寄与している。散歩道にもなっており、うるおいを感じるまちづくりの一助となっている。
将来人口の推移	高齢化社会の進展。	3.施策の必要性を高める	今後の高齢化社会の進展を見据えて、みどりが人に潤いと安らぎをあたえ、みどりを身近に感じてもらうために、緑地の保全や散策路等の整備が重要になっている。
他自治体との比較	近隣5市の中では、緑被率は一番高い。	1.施策遂行に役立つ・有利	市の魅力としてより一層取り組みを推進するのに有利。 また、一方では生産緑地が多いことで、道路整備やまちづくりの課題となっている。
民間企業・NPO・市民の動向	緑地保全活動は、その多くが組織化された環境団体に頼っているのが現状である。その団体も高齢化しており、後継者が不足している。	2.施策遂行に不利	環境団体は、市職員よりも専門的であり、活動も積極的であることから、環境団体の後継者不足は施策後退につながる。
その他	生け垣助成の件数が増えない。	4.施策の必要性を低減する	補助金適正化の観点からも、施策の廃止に向けて見直す必要がある。

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	財政状況が厳しい中、緑地を購入して公有地化を進めることが困難である。			
	関連する事務事業名	緑地保全事業			
	現在の取組状況	財政状況を考慮しながら、まとまりのある緑地の公有地化を進めるため、清瀬市土地開発公社に先行取得を依頼して、国や都補助金の活用ができる時期に市が買い戻しを実施している。			
	令和2年度以降の取組	「緑確保の総合的な方針」や「都市計画公園・緑地の整備方針」の改定時期に優先整備区域として都市計画決定をしていく。国や都の補助金を活用し公有地化を進める。			
②	施策を進める上での課題	雑木林の再生の象徴事業としてオオムラサキの飼育を実施して8年目となったため、新たな展開に向けて検討することが必要である。 また、オオムラサキの飼育を今後どのような方法で誰が行っていくのかなどの課題がある。			
	関連する事務事業名	緑地保全事業			
	現在の取組状況	市民の憩いの場となる雑木林の若返りを図り、オオムラサキが舞うような雑木林を再生するため「萌芽更新」と「オオムラサキの飼育」を行っている。萌芽や実生が順調に成長しており、下草刈りなどの管理作業が必要となっている。オオムラサキ飼育の循環技術も確立されたことからその生態について、もっと広く市民の方に理解して頂くためケージの一般公開や環境教育の一環としてオオムラサキ飼育体験を実施している。			
	令和2年度以降の取組	萌芽更新後の管理作業が必要となってきている。またオオムラサキの飼育ボランティアを募集し、今後ボランティアが主体となり飼育管理して頂けるよう、飼育だけでなく雑木林の管理作業などにも参加してもらうよう検討する。			
③	施策を進める上での課題	利用者数が一定となっており、幅広い市民に利用してもらうために、広報などの周知強化が必要である。			
	関連する事務事業名	清瀬下宿ビオトープ公園管理事業			
	現在の取組状況	教育委員会だよりにビオトープ公園に関する記事を平成30年度に掲載した。			
	令和2年度以降の取組	市報・各種SNSツールなどを活用し、幅広い世代に向けて周知強化を実施していく。			